

2016 Apr Vol.37

Five Senses

Healing & Relaxation

発行: JHRS日本ヒーリングリラクゼーション協会

REFLE主催セミナー

認知症と リフレクソロジー



日本人の強い足腰を取り戻す

不思議な草履“足半”(あしなか)を履く

セラピストにふさわしいメイクとは

学ぶことは生きること

「あかはなそえじ」先生の挑戦

ゆらめく炎が人の心を癒す

キャンドルで心と体を整える

JHRS
JAPAN HEALING RELAXATION SOCIETY

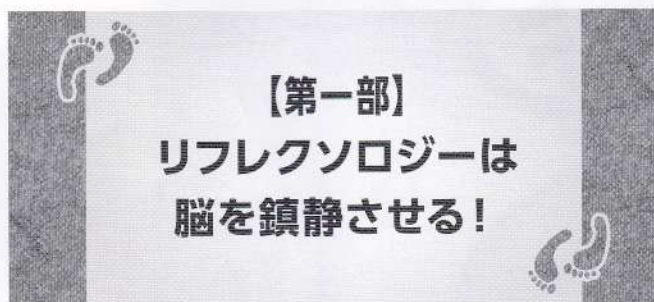
日本ヒーリングリラクゼーション協会 (Japan Healing Relaxation Society)



リフレクソロジーは認

REFLE主催セミナー「認知症とリフレクソロジー」開催

東京・高田馬場でJHRS公認校REFLE主催セミナー「認知症とリフレクソロジー」が開催された。
 脳神経外科専門医であるとともに学会認定の認知症専門医として
 認知症治療に情熱を傾ける工藤千秋先生のお話は科学的統計に立脚し、
 リフレクソロジーが認知症に対してきわめて有効な補完療法であることが示された。



リフレクソロジーとの出会い

補完療法として多くの注目を集めているリフレクソロジー。そうした中で、東京・大森にある「くどうちあき脳神経外科クリニック」では、リフレクソロジーの認知症に対する有効性を調べる初の試みとして、同クリニックと日本リフレクソロジスト養成学院【REFLE・リフレ】との科学機器を用いた共同研究が行われた。

セミナーの冒頭、同クリニック院長の工藤千秋医師はREFLEのリフレクソロジーとの出会いを語った。

「私がREFLEのリフレクソロジーと出会ったのは、ずいぶん前になります。脳外科の手術や往診で、肩や腰がパンパンになり、リフレクソロジーのお店を巡っていましたが、ほとんどのリフレクソロジーは施術後はともかく、施術中は痛いのです。しかしREFLEのリフレクソロジーは痛みもなく、施術後も本当に気持ちよく、深いリラクゼーションを感じることができた。それでREFLEのリフレクソロジーにやみつきになりました。

初めは自身の癒しの為に利用するにとどまっていたのですが、やがてその効果のすばらしさに、「これは患者さんにも良いに違いない」と実感するようになり、自分のクリニックにもリフレクソロジーを導入することにしました。リフレクソロジーは、患者さんの体調を整え、脳にも良い影響を及ぼしています。現段階では、治療という言葉は使用できませんが、リフレクソロジーが患者さんにとって良い効果をもたらしているのは事実です。いづれ医療の一部として参画されることを期待しています」

リフレクソロジーは道具を使わず、手を使って人間の体からエネルギーを引き出すものである。それはまさに「手当て」にほかならない。

工藤医師は、医療におけるこのような「手当て」の重要性を強調した。

「医聖ヒポクラテスもイエス・キリストも、釈迦もマザーテレサ

も人に手を触れることの重要性を強調しています。日常生活の中で、子どもは親の肩を揉んだり、母親は子どもの痛む箇所を手をやり、「痛いの痛いの、飛んで行け！」などと声を上げたりしています。このように、手当てとはまさに医療の原点です。

そしてリフレクソロジーとは、まさに手当てそのものです」

認知症とは何か — 三大認知症の正体 —

認知症には複数あり、主なものは三大認知症と言われている。アルツハイマー型認知症、脳血管障害型認知症、レビー小体型認知症であり、それぞれ、特徴が異なる。

「すべての認知症の中で6割を占めるのがアルツハイマー型認知症です。脳血管障害型認知症が2割、レビー小体（神経細胞にくっついているタンパク質からなる物質）型認知症が1割、その他が1割という比率です。

その中でアルツハイマー型認知症の特徴は、記憶力を含む認知機能が一直線に低下することです。一度発症すると坂道を転げ落ちるように悪くなります」

アルツハイマー型認知症は、脳画像で判別できる。工藤医師はMRI画像を指し示した。

「脳の海馬の部分に鳴門の渦巻きのような箇所がありますが、アルツハイマー型はここが大部分なくなってしまうのが特徴です。海馬が萎縮するのです。こういう特徴は、他の認知症にはありません。脳がスカスカになり全体に2割ほど小さくなると言われています」

次に脳血管障害型認知症。



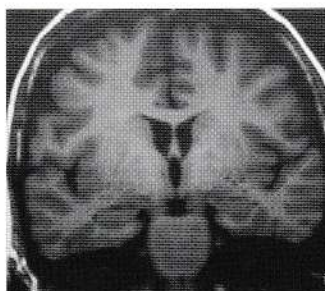
北海道から沖縄まで全国から受講者が集まり、大注目のセミナー

知症に福音

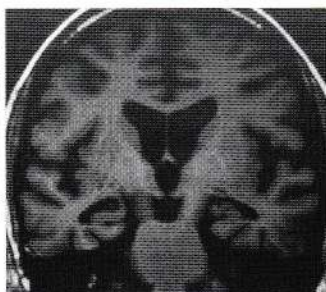
される



【第一部】「くどうちあき脳神経外科クリニック」院長・工藤千秋先生の講演



正常な脳画像



アルツハイマー型認知症患者の脳画像

「脳血管障害型の認知症にも記憶障害、認知障害があります。脳血管型認知症は、認知機能の段階的な低下が特徴です。アルツハイマーのように一直線ではなく、能力が安定しているときが続いたあとに一気に低下し、その状態がしばらく続くときさらにまた低下するというように、階段状に機能が低下していくのが特徴です。もし皆さんの周囲に「うちのおばあちゃんはいいときはいいんだけど、悪いときは話がつかない」なんていう人がいたら、そのおばあちゃんは脳血管障害型の認知症かもしれません」

そしてレビー小体型認知症。

「レビー小体型認知症は認知機能が波を打つように低下していくのが特徴です。正常なときは一般の方と同じレベルですが、そこから低下していき、そしてまた回復して一般人と同じレベルになり、といった波を描きながら、全体として低下していくのが特徴です」

そして症状にもある特徴があるという。

「レビー小体型認知症は、物忘れのような中核症状のほか、パーキンソン病のような症状があります。じっとしていても手が震える、能面のように表情がなくなる、前傾姿勢で歩こうにも最初の一步が出ない、あるいはようやく出ると今度は足が止まらないで壁やドアに激突して転んでしまうといった特徴があります。

そしてもう一つの大きな特徴は、幻覚があるということです。それも「リアルな幻視」です。この病気の患者さんと話をしていると、よく『あそこに女の子がいるでしょう。おやつあげてよ』とか『夜寝ていると枕元に大きなヘビがくるのよ』などと言われますが、このようにリアルに幻が見えるというのがレビー小体型認知症の特徴です」

リフレクソロジーには学問的なバックボーンがある

こうした認知症患者にリフレクソロジーがどのような影響を与えているかを知るために、工藤医師と日本リフレクソロジスト養成学院【REFLE・リフレ】が行った共同研究の結果についてもこの度のセミナーで報告された。

対象は認知症患者80名、健常者21名。認知症の程度は軽度の方から重度の方までおられ、その方々に対してリフレクソロジーを30分施術した。その前後で脳波測定とNAT解析（脳波のPC上での解析法）を行い、結果を判定した。

工藤医師は語る。

「今回の実験の結果、リフレクソロジーが前頭前野の活動性を脳波上で低下（興奮性の減少）させることがわかりました。そのメカニズムとしては、リフレクソロジーをすると足から大脳の視床の部分に刺激が行き、そこから感覚野に信号が行く。そして、もう一度、視床に信号が行き、視床から前頭前野に抑制の信号が行くのではと考えられます」

さらに脳の血流を測定する光トポグラフィーの結果についても報告された。

「光トポグラフィーは血液中の赤血球の動きを利用して、血液の巡りの状況を判定する計器です。この実験は認知症患者6名、健常者5名、計11名の被検者で行いました」

被検者の性別は男性3名、女性8名という構成で、平均年齢は75.7歳であった。

やはりリフレクソロジーを30分施術して、その前後で変化を測定した。その結果、健常者、軽度認知症患者ともに、施術開始10～15分頃までは前頭前野の血流が増加する傾向が見られた。そしてリフレクソロジー開始から30分が経過し、被検者が傾眠すると、血流が低下するのが観測できた。

こうした実験結果から、工藤医師は

「リフレクソロジーは脳血流量を増加させ、前頭葉（前頭前野）の興奮を鎮めるといえると思います。こうした結果により、リフレクソロジーは認知症患者に良い影響を与えようと考えていいのではないかと思います」

と結論づけた。

「リフレクソロジーにはこのように学問的なバックボーンがあることを踏まえ、リフレクソロジストの皆さんは自信を持って認知症患者の方々にリフレクソロジーを施術していただきたいと思います」

盛大な拍手とともに、第1部は終わった。